

ひだご坊

No.295

2014年2月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

同座と談合の伝統

三島清圓



〔略歴〕
一九四九年生まれ。神奈川県より大谷大学哲学科編入。卒業後、開教使として渡米。現在高山教区西念寺住職。本山同朋会館教導。

「特定秘密保護法案」が国会で可決した。

共同通信のアンケートによれば、修正・反対を含めて国民の八十パーセント近くがこの法案に異議をとらえたという。その法案がなぜこうも簡単に国会を通過していくのか、わたしはその不合理を子どもに説明できない。やがて国家の秘密を守るという名目で国民の言論が監視されることになるだろう。

子どもの頃「なぜ大人は戦争に反対しなかったんや」と父にたずねたことがある。「気づいた時

はもう遅かった。軍部の批判をチラッとでも言うものなら、翌日、警察が寺をたずねてきた」という返事がかえってきた。それを境に飛騨の言論は静まり返ったと聞く。

悲惨な戦争を経験した日本は、二度とあの暗鬱な時代に逆もどりするほど愚かではないと信じている。しかし「反対デモはテロだ」という石破幹事長の発言は、だからつづいてもかまわないとも受けとれ、正直ゾッとした。

世の中にはいろんな思想の人がいるからこそいい。いかなる政治思想を持っていても留置場にぶち込まれることはない。しかし同座とは弥陀の本願の

前には貴賤の別なく「共にこれ凡夫」であるから、上下の座をやめて丸く座れということであり、談合とは身分にかまわず誰も彼も「ものを言え、言え」ということである。当時、穢れたものとして宮座からは除外されていた女性も蓮如上人は迷わずその中に入れた。さらに「黙っているものはおそろしい」と言って秘密と遠慮をゆるさなかった。つまり日本最初の民主主義を広めたのはマッカーサーではなく蓮如上人なのだ。

真宗は今もこの伝統を受け継ぐ。一人一人の政治的立場や思想はさまざまあればあれ、その底には自由な同座・談合の五百年の伝統の血が今でも脈々と流れている。風呂屋でポロツと漏らした政治批判を告げ口されて、翌日憲兵に引かれた父の時代だけは、もう二度と繰り返してはならない。



合掌

戦時中に配られた湯呑み。蓋に「スパイに用心」と刻まれている。人々は声をひそめ、向こう三軒両隣に疑心暗鬼の眼を向けた。まさに「壁に耳あり、障子に眼あり」の時代であった。【所蔵：大阪教区教化センター】

公開講座 現代と真宗

原発と真宗

— 私たちはどこに立って 原発を考えるのか —



講師 藤井学昭氏

今回、「原発問題」をテーマにした3年連続の公開講座の最終回となります。第1回は西村秀樹氏に、ジャーナリストの経験とその視点から、原発の様々な問題をあぶりだしていただきました。第2回は嶋橋美智子氏に、被曝労働でご子息をなくされた母親としての立場からお話いただき、原発問題を共に考えました。そして第3回は、真宗の視点から原発問題を考えるため、講師に藤井学昭氏をお呼びします。藤井氏は茨城県東海村にお住まいで、1999年に起きたJCO臨界被曝事故を風化させないために語り続けておられます。ぜひご予定ください。

日時 2014年4月10日(木)
午後7時~9時30分
会場 高山別院御坊会館
(岐阜県高山市鉄砲町6番地)

入場無料

飛騨の真宗

伝承散歩② 池佛如来

いけぶつによらい

莊川町黒谷浄念寺

昔、莊川黒谷村の浄念寺に、道立という僧侶がおりました。お寺に伝わる、蓮如上人御直筆の真・草二幅の名号と上人御自作の木像、実如上人から受けた方便法身尊形や、証如上人御捺判の御文を大切に守り受け継ぎ、ご門徒と共に仏法聴聞の生活をしていました。そのころ、豊臣秀吉の命を受けた金森長近が飛騨に侵入。村中が焼け打ちになるのを恐れ、その御名号、御本尊、御文は三里ばかり離れた美濃国水沢上村(現郡上市明宝)の浄智という道場へ預けられました。ところが、天正十三年十一月二十九日(一五八六年一月十八日)の夜、白山大地震が起って大山が崩れ、川が堰き止められて、水沢上村は人家悉く水没し、御名号、御本尊、御文の全てが水底に沈んでしまいました。道立は嘆き悲しみ、なす術なく途方にくれました。黒谷村から水沢上村へは山中峠を越す急峻な山道で、冬季は積雪多く、谷川は氷柱に覆われ、行く道を閉ざされるばかりです。道立は蓑笠に吹雪を防ぎ、かんじきをはいて降り積もる白雪を踏み分け、氷雪にあかぎれ・しもやけを患いながら水底を探し続けましたが、とうとう見つけることはできませんでした。三ヶ月が過ぎた頃、道立は池の底に沈んで御本尊のお共をする覚悟を決め、水際で端座して静かに合掌し念仏していると、白いさざ波の間から白木の箱が浮かんできました。道立はハッと驚き、すぐさま水中へ飛び込んで白木の箱を開けると、かねてお預けした御名号と御本尊、御文が水に少しも濡れずそのままのお姿を現したのです。道立は我を忘れ、喜び勇んで黒谷村へ飛び帰りました。道場へ着くや、夜の更けるのも忘れて一部始終を語り伝えるのでした。それ以来、このご本尊は、「池佛如来」と呼ばれ、大切に受け継がれているという事です。 ※毎年三月二十二日、浄念寺では池佛如来御開帳の法要が勤まっています。



池佛如来
【浄念寺所蔵】

☎テレホン法話(0577)342313 ○2月21日~28日:白尾宏氏「長圓寺」 ○3月1日~10日:澤邊恵亮氏「誓願寺」 ○3月11日~20日:江馬耀準氏「元雲寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

